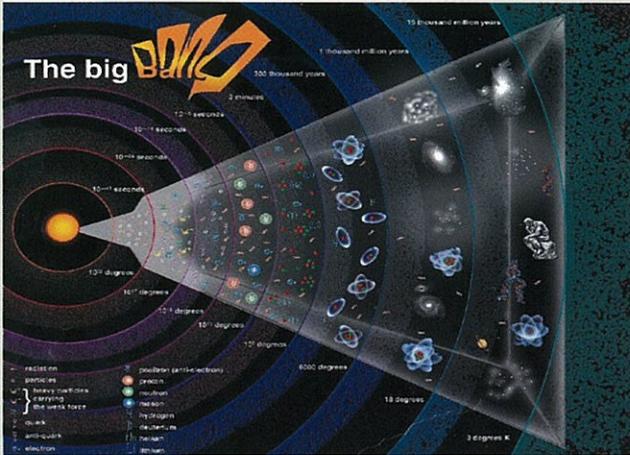


第6回在日フランス研究者科学技術シンポジウム



P. Koppenburg — KEK

茨城県つくば市にある高エネルギー加速器研究機構（KEK）で、BELLE実験に参加しているパトリック・コペンブルグ氏による研究発表。世界最高輝度を誇るKEKB加速器を使ってB中間子を発生させ、その崩壊を観測する素粒子実験、いわゆるBELLE実験で、中間子の崩壊におけるCP対称性の破れを高い精度で測定している。この研究によって、宇宙の生成に不可欠な物質と反物質の非対称性をよりよく理解することができる

2002年11月17日から19日にかけて、今年で6回目を迎える「在日フランス研究者科学技術シンポジウム（Journées Science et Technologie）」（JST）が、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。日本で研究活動を進めるフランス人およびフランス語を常用する研究者およそ60人が日頃の研究成果を発表したほか、理化学研究所の小林俊一所長やフランス高等自然科学研究所（IHES）のジャン＝ピエール・ブルギニョン所長など、日本とフランスの著名な科学者が特別講演を行った。

桑原威夫 在日フランス大使館広報部

1997年、在日フランス大使館科学技術部（SST）とフランス国立科学研究センター（CNRS）は、日本で研究を進めるフランス語圏の学生や研究者に、日頃の研究成果を発表し、議論する機会を提供しようと、「在日フランス研究者科学技術シンポジウム」（JST）を企画、開催した。以来、毎年開かれているJSTは、回を重ねるごとに規模を拡大し、今日ではSSTとCNRS東京事務所をはじめ、日本で研究活動するフランス語圏の学生や研究者の団体シアンスコープ、科学部門フランス政府給費留学生の会、在日フランス商工会議所、日仏工業技術会などで構成される日仏組織委員会によって運営されるようになった。

さらに今年からは、在日フランス大使館文化部も参画し、JSTの枠組みに人文・社会科学分野が組み込まれた。一方、協賛企業も昨年の4社から10社へと大幅に増え、このユニークなイベントに対する企業側の関心の高まりを示している。在日フランス大使館のミシェル・イスラエル科学技術部長は、東京都港区の駐日フランス大使公邸で18日に開かれた歓迎レセプションであいさつし、「こうして研究と産業の距離が近くなることは、イノベーションとテ

クノロジー分野における日仏パートナーシップの促進につながる」と、今回の協賛企業に対して感謝の意を表した。

シンポジウムは全体会と分科会で構成されている。分科会は生命・地球科学、データベースと情報システム、人文科学・経済学・社会学、遺伝子工学、材料工学、ロボット工学など約10の専門分野に分かれており、全体で60を超える最新の研究成果が発表された。一方、全体会では「東京温室効果ガス半減計画」をはじめ、日本武道、自由電子レーザー、マツタケ人工栽培の試み、バイオインフォマティクス（生物情報科学）、フランス企業の経営戦略の特色など、極めて多彩で興味深いテーマの研究が発表された。

これらと並行して、約10人の著名な日仏の研究者が特別講演者として招待された。コミュニケーションとメディアを専門とするCNRSのドミニック・ヴォルトン主任研究員が「イノベーション」をテーマに講演したほか、理化学研究所の小林俊一所長が理研の活動を紹介するとともに、科学技術分野の各部門別に協力の可能性を探った。また最終日には、IHESのジャン＝ピエール・ブルギニョン所長が日常生活で使われる数学を通して、科学と社会のあ

り方を明らかにした。

こうした密度の濃いプログラムを通して、日本で活動するフランス語圏の学生や研究者の交流を深めてきたJSTは、来年からフランス語を話す日本人研究者やフランス語圏諸国の研究者によりいっそう門戸を開くことを目標に掲げ、名称も「在日フランス語圏研究者科学シンポジウム（Journées Scientifiques Francophones）」（JSF）と改めることになった。また近い将来には、今年9月に創設された日仏共同博士過程の成果が、シンポジウムの内容をさらに充実させることになるだろう。■



関西大学の亀井克之助教授による発表。同氏は今年、自著「フランス企業の経営戦略とリスクマネジメント」（法律文化社）で、第19回「渋沢・クローデル賞（ルイ・ヴィトンジャパン特別賞）」を受賞した（写真提供：亀井克之助）

AMBASSADE DE FRANCE
AU JAPON

Service pour la Science et la Technologie

Tokyo, le 20 janvier 2003

Cher M. Kamei,

Je vous souhaite une
très bonne année 2003 et surtout
une bonne santé -

Alain Phénebauholith